## 越前町議会・令和４年６月定例会一般質問【木村繁議員】

（令和４年６月９日　午前１０時０１分　開始）

○１３番（木村　繁君）　今、日本のプロスポーツ関係で、「怪物」と言われている方が４人いらっしゃいます。昭和の怪物、江川卓さん、平成の松坂大輔さん、そして一昨日、プロボクシングのモンスター井上尚弥選手、最後に、令和の怪物、ロッテの佐々木朗希投手、この４人が怪物と言われていることです。

特に、佐々木投手におかれましては皆さんご案内のとおり、先般、オリックス戦で打者２７人に対して１本のヒットも１つのフォアボールも出さず、いわゆるパーフェクトピッチング、完全試合を若干二十歳の若者が達成をいたしました。そして、２７人のうち１９個の三振、三振奪取率７０％、簡単に言いますと、打者１０人に対して７人は三振をしたという計算になります。

私は思うんですけれども、我が愛するジャイアンツに、「たら」「れば」はあきませんけれども、佐々木投手が巨人にいれば、いたら違ったまたペナントレースが開催されているんじゃないかなというふうに思いまして、巨人に入らなかった、入れなかったということは、個人的に残念に思います。

それでは、議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

初めに、若手職員の活動や取組みについてお伺いをいたします。

昨年１１月に、県内で地域活動に取り組む若者を、各市町の４０歳以下の若手職員がサポートする若者チャレンジ応援公務員の結成式が福井市で開催をされました。活動は、県の若手職員でつくるチャレンジ応援チームと連携をして、挑戦を支えていくそうです。

県では、昨年４月から若者支援に力を入れており、各市町にも取組みを広げようと応援公務員を募集しました。メンバーは、仕事の一環業務としてではなく、自主的な活動として相談を受けたり、地域で活躍する若者の情報を県と共有するとのことであります。この応援公務員には、１１の市町の２８人が登録をし、随時メンバーを募集していくそうであります。

そこでお伺いをいたします。

本町からの参加状況や、参加している場合、どのような活動を期待するのか、参加していない場合、メンバー登録にどのように関わっていくのか、町長の所見をお聞かせください。

次に、関連になるかもしれませんが、昨年、南越前町で、若手・中堅職員が地域おこしや住民の生活向上に関する施策を町長及び町幹部にプレゼンテーションする職員政策提案制度を導入したそうであります。

南越前町の一般行政職員は、昨年１１月１日現在で１２２人おり、２０代から３０代が中心の主事・主査は７７人、このうち５５人が入庁１０年未満の若手職員で、自分たちが町の将来を背負って立つという思いを強くしてほしいと、若手・中堅によるプレゼンの機会を設けたとお聞きをしております。

健康づくり、子育て支援、高齢者の生活支援の３つのテーマで募集をしたところ、２０組３６人から計２７事業の提案があり、地域通貨「南えちじぇん」の導入、２週間かけて町内一周分の約５６キロを歩く「ぐるっと山海里ウオーキング」、おむつの無料提供サービスなど、バラエティーに富んだアイデアが寄せられたそうであります。

なお、優秀な提案は、今年度の町の施策として採用されるそうであります。採用

された職員さんにとっては通常業務とは違った達成感、また、採用されなかった職員の人には今後の大きな糧になるはずであります。

役場に限らず様々な分野で仕事をしている若手職員は、ややもすると上司の指示を待ち、指示された仕事をこなす受け身の姿勢になりがちですが、自ら調べて、考えて、伝えることで力はついていくというふうに言われております。このプレゼンは、若手職員のやる気、能力を引き出しただけでなく、ベテランの職員の方にも大いに刺激を与えたというような相乗効果もあったそうであります。

そこでお伺いをいたします。

若手職員の育成という観点から、今後の越前町を担っていく若手職員の政策プレゼンに対する町長の所見をお伺いいたします。

次に、当町における医療費の助成についてお伺いをいたします。

当町においても、医療費の抑制や町民の健康意識の向上に向けた特定健診、人間ドックの助成を行っていますが、国の施策である高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に伴い、県内のある市では、本年４月より、脳ドック助成事業を新設したとお聞きをしております。年齢は５０歳から７４歳を対象に、助成額の上限額２万４，０００円、助成回数は３年に１回、受診予定者は７０人を予定しているそうであります。

そこで、当町における適正な医療費維持を踏まえた年齢制限を設けない脳ドックの受診推進及び助成について、町長の所見を伺います。

次に、サニタリーボックスの設置についてお伺いをいたします。

近年、男性トイレにサニタリーボックス、簡単に言いますと汚物入れです、を設置してほしいとの声が高まっているそうです。前立腺がんなどの病気が原因で尿漏れ用のパッドなどを使用している人たちにとって、捨てる場所がなくて困っているという声があり、公共施設の男性トイレにサニタリーボックスを設置しようとする動きを始めた自治体があるそうであります。

公共トイレの環境改善活動を行う一般社団法人日本トイレ協会では、本年２月、インターネット上で男性トイレのサニタリーボックス設備に関するアンケートを行いました。回答した男性３６０人のうち４０人が尿漏れパッドやおむつなどを使用しており、その約７割の人から「トイレにサニタリーボックスがなくて困ったという経験がある」との回答があったそうです。

同協会では、パッドが必要な男性は少数派かもしれませんが、多様性を尊重する社会の実現に向けて、男性トイレのサニタリーボックスの設置を考えてほしいという声を上げています。

そこで、町内の公共施設の男性トイレのサニタリーボックスの設置状況について、担当理事の見解をお伺いします。

○議長（笠原秀樹君）　町長。

町長（青柳良彦君）登壇

○町長（青柳良彦君）　それでは、木村議員のご質問にお答えいたします。

初めに、若者チャレンジ応援公務員についてですが、現在、越前町からは２名の職員が参加しております。

若者チャレンジ応援公務員の活動は、「若者プレーヤー」と称した新しいことに挑戦しようとしている若者の人材の発掘や、若者プレーヤーからの相談に応じ、県の若手職員で構成する福井県チャレンジ応援チームと連携して、県・市町やメディアをつなぐハブとしての役割を担っております。そのほかにも、県のチャレンジ応援チームなどが開催するイベントや講演会などへの参加やメンバー同士が

ＬＩＮＥなどで情報の共有も行っていると聞いております。
　現在、越前町の若者からの応援依頼や相談はないとのことですが、今後、応援の輪が広がることにより、若者も夢に向かって挑戦しやすくなり、活動も活発になることを期待します。若者が地域で活発に活動することで町がにぎわい、町内の地域振興の活力にもつながるものと考えます。
　次に、若手・中堅職員の政策提案制度についてですが、越前町でも、昨年８月に三役との意見交換を行い、若手・中堅職員からの提案の場を設けました。提案者は、主事・主査職員１３名と地域おこし協力隊員１名、計１４名が２名ずつ７班に分かれ、それぞれがテーマと具体的施策のプレゼンテーションを行いました。
　内容は、ＡＩチャットボットの導入やオンライン申請の推進を図る、ＡＩを活用した行政窓口、クラウドファンディングにより資金を募り、キャンプ場を整備する地域再生プロジェクト、ヤギの放牧による耕作放棄地の除草事業など様々な事業の提案や、人材発掘の一環として町職員の採用試験を東京で行うことやテレワークやフレックスタイム制の導入、女性職員の制服導入など、職場環境への提案もありました。グループごとに多種多様な観点から斬新な提案もあり、速やかに実施できる施策や今後検討を加えた上で実施可能な施策が発表され、大変意義ある場となりました。
　提案のあった施策は、各担当課におきまして事業内容の検討を行い、女性職員の制服導入に関するアンケートを実施したほか、チャットボットの導入や東京での職員採用試験の経費を予算化するなど対応しております。今年度の政策提案は、趣向を変えて、２０代、３０代の主事・主査級職員８０名から参加者を募り、マスコミ等にも周知してプレゼンテーションを実施したいと考えております。
　町といたしましては、今後も研修会などを通じて職員の政策スキルの向上を図り、また、様々な場面において提案の機会を設け、新しいアイデアを町政に反映させていきたいと考えております。
　次に、脳ドックへの助成についてお答えいたします。
　脳ドックは、主にＭＲＩやＭＲ血管撮影による画像診断と脳機能に関する検査を行い、脳の健康状態を評価するもので、一般的に３万円から５万円程度の費用が必要となります。自治体による助成制度もありますが、内容はそれぞれ異なっております。
　県内市町の状況を申し上げますと、１４市町が国民健康保険被保険者の脳ドック費用に対し助成を行っておりますが、助成枠については５人から７０人まで、助成金額については１万円から３万６，５００円までと、市町間で大きな差があります。
　一方で、脳ドックの助成を行っている市町の多くは、後期高齢者医療被保険者の人間ドック費用への助成を行っていないか、もしくは令和４年度から廃止しております。これは、国による高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施により、加齢に伴う虚弱な状態、いわゆるフレイル状態への予防など、介護予防に重点を置いた取組みが強化されていることや県後期高齢者医療広域連合が令和４年度から後期高齢者医療での人間ドック補助を廃止したことなどによるものだと考えられます。
　越前町では、３０歳以上の国民健康保険被保険者と７５歳以上の後期高齢者医療被保険者の人間ドック費用に対して、年に１回の受診を限度とし、２万８，０００円の助成を行っており、令和３年度の実績は、国民健康保険被保険者が１７９人、後期高齢者医療被保険者が１９人受診されており、総額で５５２万９，００

０円の助成を行っております。

また、後期高齢者医療被保険者の人間ドック費用への助成については、町民からの要望もあり、令和４年度も継続しております。医療費の増加などにより、国民健康保険は厳しい財政状況にあります。また、団塊の世代が７５歳以上になる２０２５年問題などが加わり、後期高齢者医療も今後の厳しい運営が予想されています。

越前町といたしましては、様々な施策を講じて医療費抑制を図っていく中で、今までどおり人間ドックの受診を推進してまいりますが、新たに脳ドックの助成を行う場合、それに伴う財源が必要となることから、他市町の事例も参考に、他の保健事業の見直しを図るなど、財源の確保に努めて検討を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますようよろしくお願いいたします。

○議長（笠原秀樹君）　民生理事。

○民生理事（山口隆司君）　それでは、次に、サニタリーボックスの設置状況についてお答えいたします。

本町における公共施設において、男性トイレにサニタリーボックスを設置している施設はございません。以上です。

○議長（笠原秀樹君）　木村　繁君。

○１３番（木村　繁君）　ありがとうございます。

そこで、再質問という形になろうかと思いますが、町内の施設において男性トイレのサニタリーボックス設置について、町長の所見をお伺いします。

○議長（笠原秀樹君）　町長。

○町長（青柳良彦君）　お答えいたします。

男性用トイレのサニタリーボックス設置につきましては、尿漏れパッド等の捨て場に困る悩みに応えるべく、主に自治体や商業施設の男性トイレに設置する動きが出始めております。

尿漏れの主な原因は、過活動膀胱や前立腺肥大症とされています。日本排尿機能学会の推定では、過活動膀胱の患者は約８１０万人、前立腺肥大症は約４８０万人とされており、特に中高年層の患者が占めています。厚生労働省の平成２５年国民生活基礎調査では、６５歳以上の男性４６．４％が「尿漏れの症状がある」と回答しています。

また、国立がん研究センターの統計によると、平成３０年に膀胱がんと診断された男性は、全国で１万７，５５５人となっています。手術により人口膀胱を増設し、ストーマ、いわゆる蓄尿袋を挿入している方々は、外出先に汚物処理用ごみ箱が設置されていないことがほとんどであるため、ストーマを自宅に持ち帰って廃棄処分している状況です。また、ストーマ装着用のオストメイト対応トイレ設置も公共・民間施設においてまだまだ少ない状況にあり、こういった方々は外出時に大変苦慮されているようでございます。

尿漏れのある男性からは「汚れたパッドを持ち歩くのが嫌で家を出るのがおっくうになることがある」といった声が多く聞かれます。ある男性は、外出中は捨てる場所が見当たらず、使用済みのパッドはバッグに入れて持ち帰るとのことで、「恥ずかしさもあり尋ねにくい。同じように悩んでいる男性がいるはず」と、男性トイレにサニタリーボックスの設置を求める声が高まっています。

町といたしましては、公共施設や観光施設等の男性トイレへのサニタリーボックスの設置について、施設の利用状況及び利用者の年齢層等を考慮し、必要性の高い施設から順次導入を進めていきたいと考えております。

なお、導入に当たりましては、トイレの定期的な巡回や汚物処理上の感染予防などの管理が行えるよう、衛生面の条件を整えた上で実施していきたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長（笠原秀樹君）　木村　繁君。

○１３番（木村　繁君）　前向きなご答弁をいただきました。ありがとうございます。

そこで、質問というわけではないんですけれども、いろいろ感じることがありますので、今しばらく時間をいただきたいと思います。

先ほど町長の答弁にありました、いわゆる職員提案制度、今年は東京での職員採用試験の経費を予算化しているという答弁がございました。私は初めて知ったんですけれども、このことについては、町の採用試験を東京でやる。先ほどおっしゃったとおり、人材発掘はもちろんですけれども、ひょっとすると我がまち越前町への移住につながるかもしれません。的確な提案であり、予算化されたことについては、私も賛成をいたしたいと思います。

そして、今年度の政策提案は、２０代・３０代の主事・主査級の職員の８０名から参加者を募って、マスコミ等にも周知徹底をして、プレゼンを実施したいというご答弁がありました。さすがだなというふうに個人的には思います。このプレゼンをマスコミ等にお流しをして行うということについては、非常に職員のやる気が出て、知恵、アイデア等がより一層高まっていくんでないかなというふうに考えますので、ぜひとも実行をしていただきたいというふうにお願いをしておきます。

それから、２番目、３番目の脳ドック、サニタリーボックスの質問ですけれども、このことは、ある趣味の会合やスポーツ大会等を通じて、地域住民から伺った、いわゆる少数かもしれませんが住民の生の声であるということだけお伝えをさせていただくと同時に、やはり住民の生の声ですから、ぜひとも実施に向けて検討をしていただきたいというふうに思います。

先般の月例会の折に、民生部門から越前町の高齢者世帯の資料を頂きました。我が町の令和３年度では、６５歳以上の親族のいる世帯が４，８１０世帯、総世帯の６６．３％に当たり、高齢者の単身世帯が１，２２５世帯、パーセントにしますと１６．９％。また、高齢夫婦世帯が７８５世帯、１０．８％となっているということで、いかに我が町も高齢者世帯であったり人員であったり増えているということが認識されるわけですけれども、私も今年、古希になりました。７０歳というとちょっと抵抗があるので、古希と言っているんですけれども、古希になって、いわゆる老後の心配をする年になってきました。

ですから、今ほどの脳ドック、サニタリーボックスについては、こういった心配をされている方からの声ですので、繰り返しになりますが、ぜひともお願いをしたいというふうに思います。

私も含めて高齢者というのは、高齢者が元気になるのは選挙のある年と、ちょっとアルコールの入った会合等が元気になる源と言われていますが、今年、参議院選挙があります。年が明けると統一地方選挙があります。来年の春までは、私を含めた高齢者は、選挙があるんで元気でいるだろうというふうに思いますけれども、ぜひともそういった点も、それが終わりますと途端に元気がなくなります。ということも含めて、今ほどの質問でお願いをしたことについては、ぜひとも実行に移すことをお願いを申し上げまして、私の一般質問を終わります。

（午前１０時３３分　終了）